

議事録（要点筆記）

会議名	平成26年度 野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会					
開催日時	平成26年6月13日（金）午前11時～午後4時					
開催場所	野村胡堂・あらえびす記念館ホール					
審議会次第	1 辞令交付 2 開会 3 町長挨拶 4 会長互選 5 報告・審議事項 (1) 平成25年度事業報告について (2) 平成26年度事業計画について (3) 今後の10年の取組みについて 6 その他 7 閉会					
運営委員出欠状況	会長	澤口たまみ	欠	委員	住川碧	出
	委員	太田愛人	出	委員	山際正之	出
	委員	鈴木文彦	出	委員	江藤秀一	出
	委員	杉本勉	欠			
行政	町長 熊谷 泉			教育長 侘美 淳		
	副町長 藤原 博視			教育部長 小田中 健		
	生涯学習課長 高橋 正			学習推進室長 谷地 和也		
	野村胡堂・あらえびす記念館長 野村 晴一			野村胡堂・あらえびす記念館 主査 高田 美保		

野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会の記録（要点筆記）

議事に先立ち、町長より辞令書を交付。

開会（事務局）

町長あいさつ

今年の2月8日から町長を仰せつかっている熊谷泉であります、どうぞよろしくお願ひいたします。ご案内のように明日、開館20周年記念式典を開催する。この野村胡堂・あらえびす記念館（以下、記念館）は、広く文化芸術を、町民はもとより町外の方にも広く発信する場所となっている。

これも記念館運営審議会（以下、審議会）委員皆様からの幅広いご提言、ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。開館20周年を迎え、更なる発展を期している当館へ更なるご指導をいただくようお願いするものである。

<事務局> 審議会に先立ち、新たに会長の互選をしなければならない。ここで会長の互選を進めさせていただく。本日、地元の委員（澤口たまみ氏、杉本勉氏）が欠席であるが、今まで地元の委員から会長の互選という経緯がある。皆様にご了承を得られるのであれば、事務局からの提案として、前回同様会長に澤口たまみ委員を推薦したい。

（出席の委員会から了承を得る）

本日、澤口会長が欠席のため、代わって佐美淳教育長に進行を務めさせていただくことと了承を得たい。（出席の委員会から了承を得る）

それでは、5の報告・協議事項からは佐美教育長に進めていただくこととする。

<教育長> 事務局より平成25年度の事業報告を願う。

<事務局> 記念館及びNPO法人記念館協力会（以下、協力会）の実施事業を説明。

<教育長> 次に平成26年度事業運営方針及び事業計画の報告を願う。

<事務局> 記念館の事業運営方針、事業計画及び協力会事業計画を説明。

<委員> この地域だけのことではないが、年数がたつと入館者数が減少することはどこでも同じである。入館者数を急激に増やすのは難しいが、あの手この手の企画を考えなければならない。先日、東京を会場に開催しているレコードコンサートに行き、記念館のパンフレットを渡しながら紹介をしてきた。音楽に興味を持つ人たちが集まる会だが、その中でも「野村あらえびす」の名前にピンとこない人たちが増えている。

これは時代の推移で、仕方がないことではあるが、こういった施設、SPレコード等の財産があるということ、機会をとらえて積極的に周知、世の中に知らしめていくことを図っていかねば、入館者数は更に減少するのではないかと。

野村学芸財団（以下、財団）の卒業奨学生には、東北の方も多く、年に数回行っている財団の催しものにも堂子会（財団の卒業奨学生）の方々にも参加していただいている。あらゆる機会をとらえ、記念館の存在を積極的なPRをお願いしたい。

<教育長> 今回の審議会は昼食を挟んでの開催としている。午後の審議事項では、今後10年の取組みについて、沢山のご意見をいただきたい。記念館に人をどう寄せるだけではなく、寄せる魅力をどうするかも併せて議論していただきたい。

<委員> 昨年度開催した審議会委員懇談会でも提言したが、「野村胡堂・あらえびす」を知らない世代が増えてきている。また、「銭形平次」のテレビ放映をしなくなってから大分時間が経っており、若い人たちに聞いても「野村胡堂って誰?」、「銭形平次とは何?」の状況になってきている。知らない人たちに知らせるような事業をしていかなければならぬのでは。26年度もいろいろな事業を計画しているが、中高生を対象とした事業、例えばデジタルしか知らない高校生に、アナログを知ってもらう機会としてSPレコード聴く機会をつくる、記念館で開催しているレコードコンサートを学校単位、大学の音楽関係のサークル等に周知していったらどうか。

もう1つ、堂子会中にメールのネットワークがある。今後、記念館と堂子会との連絡をどうとっていくか、また、財団と記念館の事務方が定期的に連絡をとりながら、合同で堂子会ニュースに事業の周知等、ネットワークを活用していったらどうか。

(昼食に入るため、一旦審議会を中断)
(審議再開)

<教育長> 午後は、今後10年の取組みについて、顕彰をどうしていくか、学術的部分(文学・音楽)をどうしていくか、レコードコレクションの活用をどうするかをキーワードとして、それぞれ委員からご意見をいただきたい。

<委員> 私自身、審議会委員として関わるようになり、記念館がよりわかるようになった。記念館の存在は、財団主催の遠足に参加し初めて知った次第であり、卒業奨学生の中でも記念館の存在そのものを知らない人たちがいると思われる。今後、堂子会と記念館、同じく財団の事務局と定期的または年に数回、メール等で連絡をとりあい、現奨学生及び堂子会のメンバーに記念館の行事等を広報していくことが記念館の周知につながると思う。

次に、若い年代の人たちに野村胡堂・あらえびすをどう周知していくかを考えると、経費をかけずに、野村胡堂の名を冠した作文コンクール、小さい子たちを対象とした、江戸時代の服装、髪型等を絵で書いてもらうコンクール等、野村胡堂と絡めたコンクールを行い、その作品を記念館で展示する。展示された作品を見に本人及び親たちが来館することにつながる。次に、記念館内の展示物についてだが、構成が大人向けになっているが、これを小学生から高校生向けに、わかりやすい表示、イラストを入れる等、大人向けと子ども向けの案内説明文を作ってはどうかと考える。

年に1回、最初は岩手県を中心にそれから東北の子どもたち、大学生を対象とした作文、論文を募集する、アナログの音の良さ改めて伝えていく等の取組みを、今後10年間かけて取り組んでいく必要がある。

<委員> 紫波町民の方々が、この記念館そして内容を知ってもらうことが大切である。野村胡堂がここで育った、そして記念館がつけられたことを小中学生の遠足等でここに訪れて知ってもらいたい。このことは、是非教育委員会で検討していただきたい。また、町外の人たちにも野村胡堂、記念館を知ってもらうよう、盛岡(啄木・賢治青春館、盛岡てがみ館等)を会場として講演、講義を開催する等の啓蒙活動が必要と考える。記念館を案内する際に、交通の便が悪いことが話題になる、今後検討していただくよう提言したい。

<委員> あらゆる形で記念館の活動、この素晴らしい施設を盛岡、東京及び全国に啓蒙していく必要があると考える。読本(『野村胡堂・あらえびす』)の出版及び全国的に発売したことは啓蒙活動になっており、更なる宣伝が必要と考える。

<委員> 同じく、383篇からの選者を自分が引き受けた「銭形平次捕物控傑作選」が発売されている（7月までに全3巻が発売）。讀賣新聞で紹介してもらったが、好評で売れ行きも良い。読者、関係者からは、読んでみるとモダン、今でもおもしろいとの感想をいただいている。忘れられていた「銭形平次」を少しでも広めながら、作者が野村胡堂であるということ、繰り返し、繰り返し、いろんな手を使い知ってもらうことをしていかなければならないと実感している。まだ確定はしていないが、日本映画衛星放送株式会社で「銭形平次」のドラマ化と大川橋蔵氏出演ドラマの再放送検討している話もあり、テレビの方でも動きが出ていることをお伝えしたい。

あらえびすの分野になるが、直木賞選考委員で『三国志』等を書いている宮城谷昌光さんがクラシックCDの引取り先を探していたため、記念館を紹介のうえ、野村館長に承諾を得て約3,000枚のCDを引き取っていただいた。是非、『クラシック私だけの名曲1001曲』（宮城谷昌光氏著書・新潮社・2003年）を購入し、CDと併せてコーナーを作っていただければと思う。しかし、クラシックファンの宮城谷さんでさえ、記念館の存在を知らなかった。改めて記念館を周知させていかなければならない。

<委員> 第1回野村胡堂文学賞を小中陽太郎氏が受賞され、1月31日に250名の方々が出席し、授賞式及び催しものが盛大に行われた。ただ、こういった事務局の方々が高齢化しており、若い世代に知ってもらわなければならないことが課題と考える。

財団役員の先生方は、本職を持ちながらボランティアで役員を引き受けてくださっている。自分の使命、役割は、財団の中で輪を保ちつつ、先生方のモチベーションを上げることだと思っており、今の時代でも誰かが野村胡堂を思い出し、取り上げてくださっていることに感謝している。また、胡堂は関東大震災について、新聞で書いているが、最近ジャーナリストの顔が注目されていることもお伝えしておきたい。

<教育長> 只今、住川委員から話があったジャーナリストのこともキーワードに加えさせていたきたい。

<委員> 野村胡堂・あらえびすの業績に対する中身は定まっているが、時代と共に薄まってきた。記念館の今後の10年を考えるとすれば、記念館の認知度を上げていくことではないか。全国で開催されるコンサートでは、入場時に他で開催される大量のコンサートチラシが配られる。大半の人は中身を見ずに捨ててしまうが、10人に1人は中身を一通り見るであろう。遠くてもこういった設備、貴重なレコードを所蔵しており、レコードコンサート、記念講座が開催されていることを知れば、興味を持つ人は多いと思う。上野文化会館、サントリーホール等に訪れる人たちは、必ずクラシックファンである。そういった所で記念館を周知する方法を検討し、知らしめる必要がある。

以前は、銀座にあるアンテナショップ（銀河プラザ）に記念館のリーフレット等が置かれていたが今も置いているのか。また、来館者に記念館行事の送付を希望する確認等のアンケートはとっているのか。

<事務局> 現在は銀河プラザにはリーフレット等を置いていない。

館内にアンケート、芳名録を設置しており、芳名録に記入された方に対しては、行事予定をお知らせしている。

<委員> 記念館は、建築物としての評価も高いと思われる。建築物として、そしてオーディオ等の設備、世の中にありふれていないものを備えている施設であることを知らしめることが、5年、10年先にもつながり、実っていくのではないかと。

<教育長> 各委員からの意見を聞いた所感を、町長からいたきたい。

<町 長> 各委員、それぞれの立場から沢山のご意見をいただいた。具体的な取り組み、できることは今までも行っているが、これからも手掛けていきたい。我々世代までは「銭形平次」テレビの時代であったが、今の人たちはわからないだろう。いろいろな切り口、ジャーナリスとしての胡堂先生等、いろいろな方面から、もう一度物語を組み立てていく場面が必要である。記念館は、町内校の遠足コースになっているのか。

<教育長> なっていない、今後仕掛けていきたい。

<町 長> 胡堂先生を含め、他にも町民顕彰する先生方がいる。小学生、子どもたちに先生方を顕彰してもらう場所が必要と考える。

<委 員> 記念館の設計者・吉武泰水（よしたけやすみ）と、国会議事堂設計者である父・吉武東里（よしたけとうり）、父と子の建築物を題材にした企画ものを開催することも、おもしろいと思う。

<委 員> 紫波町の名産と文化的なものを併せ、なじみやすいキャッチフレーズを作り広報をし、知名度を上げていくのはどうか。（例）「音楽とワインの町、紫波町」、「レコード・音楽とワインの町、紫波町」

また、音楽関係の大学、大学の音楽サークルを調査し、ホールで練習ができる、SPレコードを聴くことができる、紫波町の名産を堪能できる等をPRし、紫波町で夏の合宿ができることを周知していくのはどうか。

<教育長> 紫波中央駅前に宿泊施設もオープンする等、呼び込む体制が整ってきている。全国ネットで広めていきたい。

<委 員> 財団では年に1回会報が発行されているので、それに記念館の行事を掲載してもらう等、財団の会報を活用するのがよい。

<委 員>

最近、返済無用の奨学金を行うところが増えてきているが、財団は、返済不要の奨学金を行った先駆けである。そういったことも周知していったらどうか。

現在活躍している元奨学生たちに、講演してもらう等、精神的な協力をお願いしていくこともよいのではないか。

<委 員> 在京ふるさと会（紫波町ふるさと会）の会員に、記念館事業の周知、広報等を送付しているのか。

<藤原副町長> 現在は紫波町ふるさと会役員数名に広報を送付、年1回東京で開催する総会において、出席者に広報等をお配りしている。

<教育長> 役員数名への広報送付から、拡大することも今後検討していきたい。

<委 員> 岡堂コレクションとあらえびすコレクションのリストをまとめ、冊子にしたものを数千円から1万円程度で有料販売するのはどうか。マニアの方々は必ず買うだろうし、知名度を上げることもつながる。

<教育長> マニアといった方々は興味を持つだろうし、資料的に価値があるものになると思う。

<委員> 胡堂さんが関東大震災の様子を書いた手紙（関東大震災の報告・手紙）、記事（生まれ代わった東京／復興途上の姿を見るの記）がある。いま朝日新聞で夏目漱石の「こころ」を再掲載して注目を浴びているように、手紙及び記事を岩手日報等に連載で再掲載もらう方法もあるのではないか。ジャーナリスト・記者としての野村胡堂を訴えられるのではないかと思う。

<委員> 埋もれていく野村胡堂・あらえびすを広めていかなければならない。

<教育長> 皆様から沢山のご提言をいただき、審議いただいた。感謝申し上げる。

<事務局> 本日の審議内容は議事録を作成し、皆様に送付させていただく。また、議事録は、今後10年を考えるプロジェクトチームでの検討する資料とさせていただきたい。

閉会（事務局）